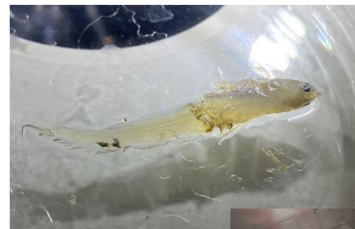
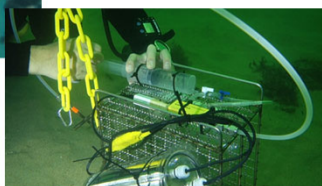


令和5年度若手研究者活動支援制度助成金 公開成果報告会

国際エメックスセンターは、閉鎖性海域の環境保全に資する研究に取り組む若手研究者の育成支援に取り組んでいます。令和5年度の助成対象となった7名の若手研究者が得た研究成果を広く一般のみなさんに知っていただくため、公開成果報告会を開催します。若手研究者の新しい研究にご興味のある方は、ぜひご参加ください。



参加費
無料

2024年
5月13日(月) 13:00~17:00

スペースアルファ三宮 大会議室

[アクセスMap](#)

〒651-0021 神戸市中央区三宮町1-9-1 三宮センタープラザ6F

定員 先着250名

会場参加 定員50名
Zoomウェビナー定員200名

【電車をご利用の場合】

- ・JR「三ノ宮」駅、各線「三宮」駅より徒歩約5分
- ・地下鉄海岸線「三宮・花時計前」駅より徒歩約3分

13:00	開会の挨拶		岡田 光正 理事長
13:05	研究発表	陸域から供給されるケイ素の歴史の変遷と干潟生態系の群集構造に与える影響(その3)	九州大学 大学院工学研究院 助教 藤林 恵
13:35	研究発表	季節変化を伴う牡蠣と微細藻類間における必須脂肪酸組成の関係性	香川大学 農学部 研究協力員 中國 正寿
14:05	研究発表	二枚貝浮遊幼生の餌である微小珪藻類の生理・生態に関する研究～浮遊幼生の活力や着底に与える影響と増殖特性の解明～	水産研究・教育機構水産技術研究所 廿日市拠点 研究員 岡村 知海
14:35	研究発表	有明海における遡河回遊魚エツの産卵・回遊生態の解明と保全に関する総合的研究(その2)	東京大学 大気海洋研究所 助教 板倉 光
休 憩 20分			
15:25	研究発表 (Web)	北海道厚岸湖のアマモ場における透明細胞外重合物質粒子(TEP)の変動要因の解明(その2)	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所 准教授 伊佐田 智規
15:55	研究発表	陸域一海域一生態系統合モデルを用いた宮城県志津川湾デジタルツインの開発	東京工業大学 環境・社会理工学院 准教授 中村 隆志
16:25	研究発表	炭素収支の解明を主とした沿岸域の炭素・栄養塩の動態把握：富山湾をモデルケースとして	富山大学 学術研究部 理学系 特命助教 小林 英貴
17:00	総括 閉会		

〔主催〕(公財)国際エメックスセンター

詳細はHPをご覧ください <https://www.emecs.or.jp/topics/20240513>

参加費
無料

プログラム

藤林 恵
九州大学 大学院工学
研究院
助教



干潟や沿岸域の主要な生産者である珪藻の増殖には溶存態ケイ素 (Dsi) の供給が不可欠です。本研究では、ダム、下水処理施設、河道内植生、水田が干潟に対するDsi供給量にあたる影響について福岡県の瑞梅寺川流域を対象として調査・研究を行いました。その結果、水田が流域のDsi動態に無視できない影響を与えていることが見えてきました。将来的には、沿岸域の生産性や健全性を高めるための流域管理手法を提案することが目標です。

中國 正寿
香川大学 農学部
博士研究員



海の冬の味覚である「牡蠣」。しかしながら、牡蠣の成長やそこに含まれる栄養素、そして餌と栄養素の関係性については、未解明の部分が多くあります。本発表では、栄養素として、現場環境の牡蠣の身および懸濁粒子 (=餌) 中に含まれるエイコサペンタエン酸 (EPA) とドコサヘキサエン酸 (DHA) の変動を2年間に渡り分析し、牡蠣の成長とその栄養素と餌との関係性の解明を試みました。

岡村 知海
水産研究・教育機構
水産技術研究所廿日市拠点
研究員



最近の研究で微小珪藻類が二枚貝浮遊幼生の餌として好適で、それらが繁茂することが二枚貝類の生産にとって重要であることが示唆されました。瀬戸内海では、二枚貝類の減少が問題となっています。本課題では微小珪藻類が二枚貝生産の基盤となる幼生の着底や生理活性に与える影響を調べるため、広島湾において微小珪藻類の発存量やマガキの着底成功率および生理活性を調べました。さらに、微小珪藻類の大量発生メカニズムの解明を試みました。

板倉 光
東京大学
大気海洋研究所
助教



エツという魚をご存知でしょうか？カタクチイワシの仲間であるエツは東アジアに広く分布し、日本では有明海にのみ生息します。彼らは閉鎖性海域、特に高濁度域に依存し、海と川間を回遊するため、高濁度域の健全性や海と川の接続性を示す良い指標になり得ます。私は本種の産卵・回遊生態の理解を通して、閉鎖性海域の環境やエツ資源の保全に貢献することを最終目標として研究を進めています。

伊佐田 智規
北海道大学北方生物圏フィールド
科学センター厚岸臨海実験所
准教授



アマモ場によって吸収・貯留される炭素「ブルーカーボン」は、気候変動緩和機能として重要です。透明細胞外重合物質粒子は周りの粒子を凝集させる接着剤として働くことが知られていますが、藻場での研究はほとんどありません。新たな炭素貯留経路を解明し、ブルーカーボン生態系保全へ貢献する事を目指しています。

中村 隆志
東京工業大学
環境・社会理工学院
准教授



近年の地球温暖化や海洋酸性化は、半閉鎖性内湾の貧酸素化および酸性化を深刻化させ、カキなど水産資源に影響を及ぼす恐れがあります。本研究では、宮城県南三陸町志津川湾を対象に、将来の環境変動に伴う水産資源の変化を予測し最適な養殖のあり方などについて探索を行うことができる志津川湾生態系デジタルツインの開発を目指して研究を進めています。

小林 英貴
富山大学
学術研究部 理学系
特命助教



この研究は、富山湾の炭素循環形成メカニズムを理解するためのモデルを構築している。海洋観測データとモデルを比較しながら、モデル地形解像度や河川からの淡水供給が、海洋物質循環に及ぼす影響を調べた。将来的には、陸起源栄養塩流入の沿岸海域の物質循環や炭素貯留に対する寄与を、定量的に解明することを目指す。

【参加申し込みについて】

WEB参加ご希望の方は、[Zoomウェビナー](https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_KWR2hIr0QBubZwWn_BdeXA)からお申込みください。
(https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_KWR2hIr0QBubZwWn_BdeXA)

会場参加ご希望の方は、[Googleフォーム](https://forms.gle/oHNrhHgT154ANG8KA) (<https://forms.gle/oHNrhHgT154ANG8KA>)

もしくは、下記の申込書に必要事項をご記入の上、国際エメックスセンターへメールでお申込みください。



Zoomウェビナー
QRコード



Googleフォーム
QRコード

令和5年度若手研究者活動支援制度助成金 公開成果報告会 会場 参加申込書

お名前	所属	役職等	参加方法	E-mail
			会場	
			会場	

【お問合せ・参加申込先】

(公財)国際エメックスセンター (担当:大輪)
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番2号
TEL 078-252-0234 FAX 078-252-0404

詳細HP <https://www.emecs.or.jp/topics/20240513>

人と防災未来センター 東館5階
E-mail secret@emecs.or.jp

